

府馬地区の液状化対策事業計画書（案）

(様式)

液状化対策事業計画(平成27年5月)

別添4

箇所 番号	都道府 県名	よみがな 市町村名	よみがな 対象区域	対象区域 の面積(m ²)	対象区域上 の家屋数(戸)	宅地の 所有者の数	宅地の 借地権者の数	同意状況		被害が発生するおそれ のある公共施設	都市再生区画整理事業 または都市防災推進事業	公共施設と宅地との 一体的な液状化対策の内容	交付対象事業の 概算事業費(百万円)	土地所有者等の 負担額(百万円)	施設の維持管理 に関する事項
								所有権	借地権						
1	千葉県	かとりし 香取市	ふま ちく 府馬地区	22,000	41					市道6104号 市道6106号 市道6108～6110号	<input type="checkbox"/> 都市再生区画整理事業 <input checked="" type="checkbox"/> 都市防災推進事業	地下水位低下工法	740	1.33	・公共施設 ・宅地
	合計			22,000											

(別紙2)

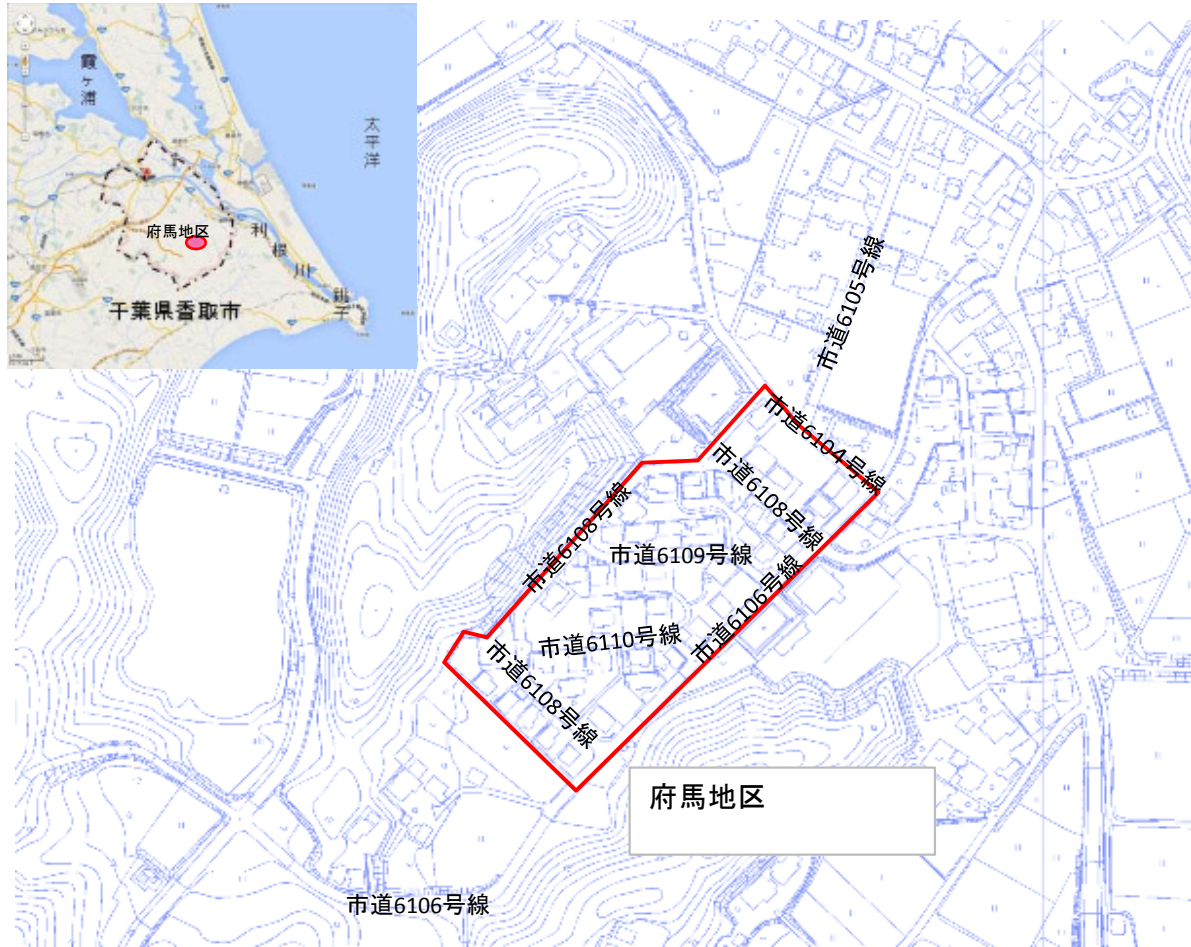
箇 所 別 調 書

(単位 : 千円)

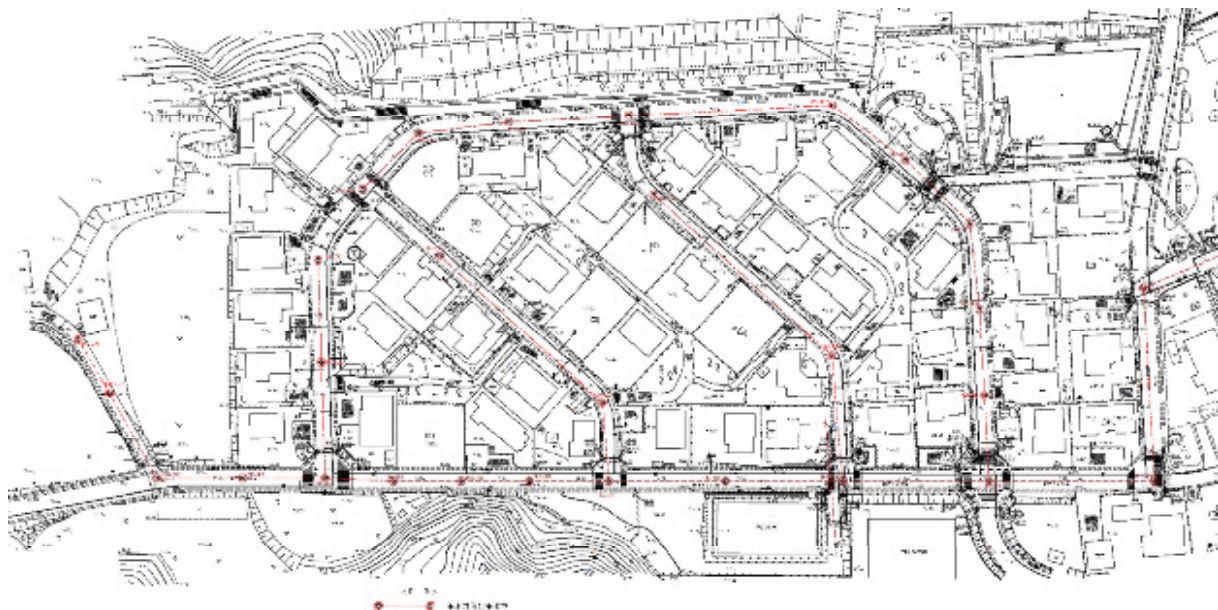
都道府県名	市町村名	箇所番号	地区名	地区概要等	事業費							備考			
					工種	種別	細別	規格	単位	員数	単価		金額		
チバケン 千葉県	カトリシ 香取市	1	フ マ チク 府馬地区	液状化対策事業区域現況	本工事費										
				1) 概要 対象区域の面積 22,600㎡ 液状化層厚 10m 地下水高 GL-0.5m 盛土上の人家戸数 10戸 被害が発生するおそれのある 公共施設 市道6104号、6106号 6108～6110号	地下水低下工法										
				2) 計画期間 平成27年7月～平成28年3月	止水壁工			鋼矢板10H型 L=5m	m	380	90.0	35,000			
				3) 公共施設と宅地との一体的な液状化対策の内容 地下水低下工法	排水管敷設工	推進工法	φ200mm	m	1,000	200.0	200,000				
				4) 市街地液状化対策推進事業において行われる交付対象事業	マンホール設置工		φ2000mm 深度5m	基	31	3000.0	93,000				
				市街地液状化対策事業 □都市再生区画整理事業 ■都市防災推進事業	付帯工	埋設切廻し・復旧		m	380	260.0	99,000				
				5) 交付対象事業の概算事業費 740,000千円	直接工事費			式			427,000				
				6) 土地所有者等の負担額(10年間) 33千円/戸	共通仮設費			式			43,000				
				7) その他必要事項 ※同意状況等 所有者○人 (内同意○人) 借地権者○人 (内同意○人)	現場管理費			式			129,000				
					一般管理費			式			86,000				
					小計						685,000				
					設計費			式							
					工事費計						685,000				
					消費税相当額			式			55,000				
					計						740,000				
					事務費										
					合計						740,000				

位置図・平面図

位置図(液状化対策工事)

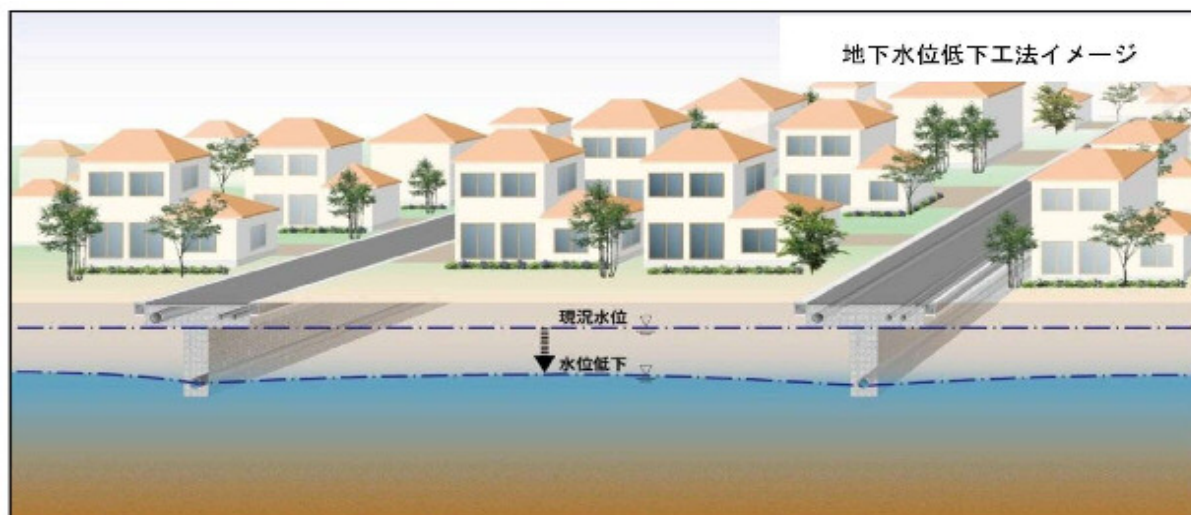


平面図(液状化対策工事)



標準断面図

(地下水低下工法イメージ図)



(「市街地液状化対策推進ガイドンス」(平成26年3月：国交省都市局都市安全課)より引用)

(公共施設と宅地の一体的な液状化対策の詳細)

1. 対策工（地下水水位低下工法）の考え方

- 道路下に集水マンホールと排水管（深さ約4m）を敷設する。
- 集水マンホールと排水暗渠管を地区内の道路に張り巡らせ、道路（公共施設）、宅地ともに地下水位を地表面から3m以上の深さまで低下させる。
- これにより、非液状化層厚(H1)3mを確保するとともに、液状化による沈下量(Dcy)を約7cm、PL値を約5.0に抑える。
- 地盤の傾斜を利用し、排水は排水管から自然流下で流末（放水路）まで流す。

2. 対策施設の詳細

①集水マンホール

- 有孔タイプの組立式人孔を用いる。
- 内径0.9mタイプを標準とする。
- 設置深さは5.0mとする。

②砕石・透水シート

- 集水マンホールの周りには、地下水を引き込みやすくするための砕石を設置する。
- 砕石は周辺地盤の土砂の引き込み、目詰まり防止のため粒度調整を行う。

③排水管

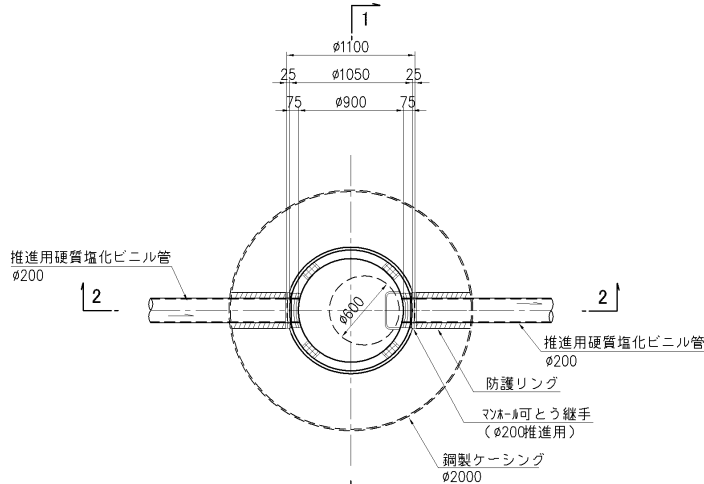
- 集水マンホールで集めた地下水は、排水管で流末に排水する。
- 管径は200mmを標準とする。
- 埋設深さは地表面から約4.0mとし、近接家屋への配慮から推進工法で施工する。

標準断面図

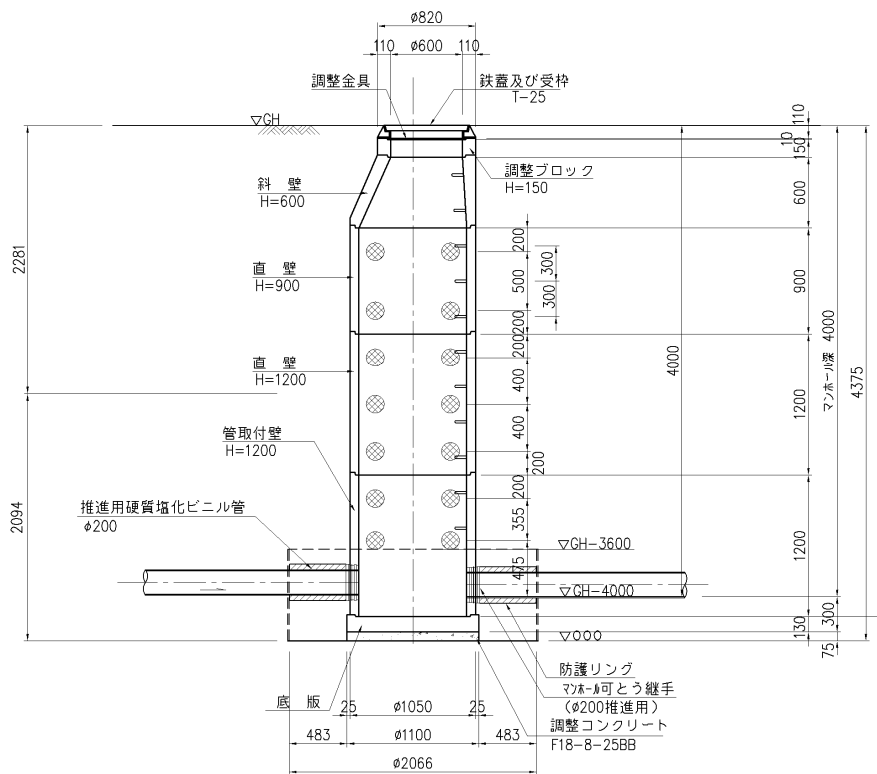
(A-A断面図)

集水マンホールの構造図

平面図



2-2断面



- ・地下水はマンホールに設置した穴から流入し、底部の排水管により流末に排水される。
- ・地下水位をGL-3mにするため、集水マンホールの穴はGL-3.6mまで開口。排水管はGL-4mに敷設する。